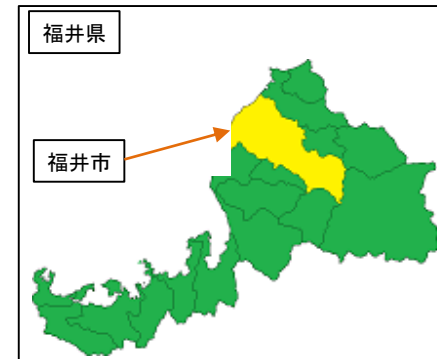


定年帰農者と集落が一体となった地域の活性化

ふくいし くらつくり
(福井県福井市 蔵作集落協定)



- 定年帰農した集落協定代表の勤務経験を活かして6次産業化や新規特産品を導入し、地域の活性化に取組。

協定面積：4.2ha（田） 交付金額：88万円（個人配分52%、共同取組活動48%）
協定参加者：農業者23人 協定開始：平成12年度

地域の現状

- 当地区は、市内から車で30分かかる山間部に位置し、協定農用地の全てが急傾斜。過去には、豪雨により、農地や農業用施設に甚大な被害を受けた地区。
- 農業者の高齢化の進行、小規模兼業農家が多いことから、制度当初から本交付金に取り組み、「農地が荒れれば、集落も荒れてくる」と、次世代に働きかけ、非農家と連携して農地の保全に取り組む。
- 協定参加者を含む集落有志が転作田を利用してそばを栽培し、近隣集落と連携して開催する「美山そばまつり」に出店。



【協定農用地】



【美山そばまつりの出店】

取組の概要

- 定年帰農した協定代表は、惣菜会社やスーパーの加工部門の勤務経験から、6次産業化や新規特産品の導入や豪雨被害を受けた当地区の活性化に意欲的に取組。
- 平成25年度からは、特産品の「しょうが」と伝統野菜の「河内赤かぶら」の栽培に取組。
- 平成30年度から、市単事業で導入した野菜乾燥機や製粉機により、「河内赤かぶら」を乾燥・粉末化し、市内のかき餅製造所や洋菓子店へ出荷。また、新たな特産品として、生で食べられる「サラダ赤かぶら」の栽培も開始。テレビで紹介されたところ、すぐに品切れになる売れ行きで、今後増産することとしている。



【しょうが畑】



【加工機械】



【サラダ赤かぶら】